

# STOP 方法を探せ！

～落書きゼロのまちをめざして～

担当教官：吉野 邦彦 教授 TA：星野 奈月

班員：今津創、大村清美、村中大輝、松永純、藤村美月、三宅勇輝、竹川豪一、長晃

## 1. 背景・目的

つくば市は「田園都市つくば」をマスタープランに掲げ、環境に配慮した都市計画に基づいて開発されてきた。実際に、昨年度つくば市が実施した住民への意識調査<sup>1)</sup>によると、つくば市は優れた生活環境を有し、景観も良いまちだと 80% 近くの住民が認識している。しかし、市内には改善すべき生活環境上の問題点も至る所に散見される。特に落書きは、街路樹や緑地の整備が進んだまちの中で、周囲の美観を損なっているため、よく目につく。落書きが多数集中している場所は、同時にごみのポイ捨ても多く見られ、管理が行き届いていない印象を受ける。市内から落書きを無くし、街の景観を良好に保つことは、街のイメージと治安を向上させる。さらに、まちの美観は市民の街への愛着や誇りを高め、積極的な市民活動にもつながり、より住みやすい街となることが予測される。

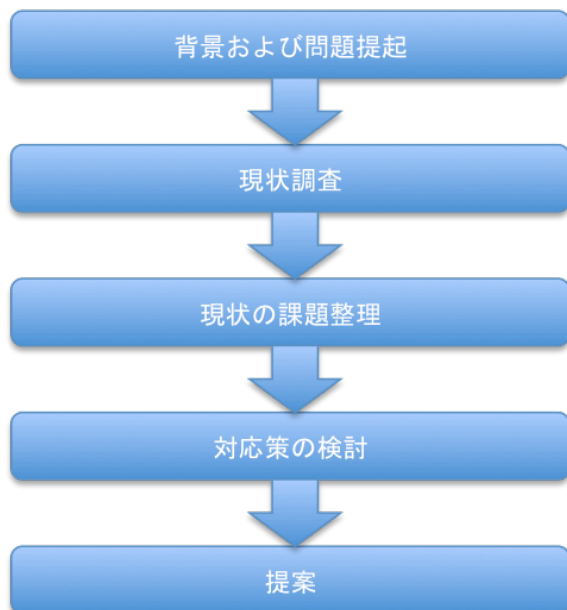


図 1：実習の流れ

住民の治安面での不安を無くし、より住みやすい街とするためにも、つくば市における落書きへの対応は不可欠である。以上の理由から、私たちはこの問題に対する解決策を検討することとした。

なお、実習は左下図のフローにしたがって進めていく。

## 2. 事前調査

上述した背景・目的を踏まえ、以下の事項について把握するために、事前調査を行った。

- ・つくば市の落書きの現状
- ・落書きによって生じる問題
- ・落書きが行なわれる理由
- ・落書きに対する既存の対応策とその効果

### 2-1. 現地調査

つくば市内の落書きの実態を知るために、筑波大学及びつくば駅周辺にて調査を行った。

日程：2014 年 4 月 18 日～21 日

方法：班員全員によって落書きの分布や描かれている場所、落書きの内容などを調べた。

### 調査結果

落書きの正確な数までは把握できなかったが、落書きは(交通量の多い道路沿いや、ループ道路沿い案内板など)通行者からよく見える目立つ場所に集中していることがわかった。この他の場所でも、複数の落書きが一定の範囲に集中しているケースが多く、そのような場所ではゴミのポイ捨て

なども見られた。

落書きの内容はほとんどがアルファベットを模したような絵柄であったが、その意味はわからなかった。また、同じ絵柄の落書きが複数箇所にされている例が多く、同一犯または同一のグループが複数の落書き被害に関わっている可能性がある。



図 2：筑波大学構内の落書き

## 2-2.文献・資料による調査

犯罪に関する文献と、つくば市の発行する資料からわかったことを以下にまとめる。

### 1) 落書きによって生じる問題

ケリングの「割れ窓理論」によると、落書きなどの軽犯罪は放置しておくことでさらなる犯罪を誘発するとされている。落書きが放置されることでルール違反や犯罪などが増加し、その場所の治安を悪化させる可能性がある。

### 2) なぜ落書きがされるのか

落書きは、犯人の自己顕示欲の表れである。よって、よく人目につくところは標的にされやすい。また、すでに落書きのある場所では、連鎖反応によって新たな落書きがされることが多い。

### 3) 落書きへの対応策とその効果

落書きへの対応策として最も基本的なのが、ボランティアによる消去活動である。しかし、落書きは再発率が非常に高く、消去してもすぐに同じ場所に描かれることが多い。再発を防ぐ方策としては、落書きの多発している箇所へあらかじめ壁画を描いて書かれにくくするなどがある。東京都

町田市では、市内数カ所で壁画作成を行ない、その後落書きは行なわれていない。

つくば市では、市による落書き消去活動や、市・つくば青年会議所・ライトオンが協力して行なっている清掃活動の一環として、年に数回落書き消しが行なわれている。しかし、つくば市が発行する環境白書によると、昨年市が消去した落書きはすべて同じ場所に再発した。

## 2-3.事前調査のまとめ

事前調査でわかったことを以下にまとめる。

- ・ 落書きは一定のエリアに集中しており、目立つ場所が被害を受けやすい。
- ・ 落書きは連鎖的に多発し、治安悪化を誘発する可能性がある。
- ・ つくば市では、落書きを消去してもほぼ再発している。

## 3.現状調査

事前調査を踏まえ、今後の落書き対策に必要な情報を収集するため、ヒアリングやインタビューによる 4 つの現状調査を行った。

対象：筑波大学生

日時：2014 年 5 月 2 日 11：30～13：00

場所：筑波大学 2 学エリア、3 学エリア、  
中央図書館

目的：つくば市で生活をする人の、落書きに対する関心の現状調査

方法：インタビューによる調査

### 調査結果

筑波大学周辺で落書きを見たことがある人は 26 人、見たことがない人は 24 人と、ほぼ差はなかった。また、落書きをしている現場をみたことがある人はそのうち 8 人だった。平砂トンネルや高架下、看板などに描かれている落書きが多くの学生に認識されていて、落書きについて不快感を持つ人や治安や景観が悪くなると思う人がいる一方で、上手な絵なら構わないという意見もあった。

つくば市での落書きを消す活動を知っている学生は6人しか居らず、実際に参加したことがある人はそのうち3人だけだった。そもそも落書き消しの活動を知らないから参加できないという意見もあったが、知っていたとしても自分に関係ないから、面倒だからなどという理由で参加しない、という学生も多かった。

対象：つくば市役所 環境生活部環境保全課  
御田寺義朗氏、柳田奈苗氏  
日時：2014年5月2日16:00～17:00  
場所：つくば市役所  
目的：落書き消去活動に対する行政による対応の  
現状調査  
方法：インタビューを実施

#### 調査結果

市の巡回パトロールは複数の課と一緒に「防犯環境美化サポーター」という名前で週4回9:00～17:15まで行っている。しかし、実際に犯行現場を目撃したことはない。市では公共の物に描かれている落書きしか消せないのも、その中で大通り沿いや大きいものなど、目立つ落書きを優先して消している。落書きを消すのではなく、描かれないような方向で対策したいと考えており、現在は上から描かれにくいペンキを使用している。また、「つくば市きれいなまちづくり実行委員会」と連携して落書き消去活動を行っている。

対象：つくば市きれいなまちづくり実行委員会  
日時：2014年5月13日18:30～19:30  
場所：Right-on つくば本社  
目的：落書き消去活動の現状調査  
方法：きれいなまちづくり実行委員会会議に  
参加

#### 調査結果

この委員会はつくば市、Right-on、つくば青年会議所によって運営されている。各団体が予算を出し、毎月清掃活動を行うことになっている。落書きの清掃活動では、塗装業者の協力によって格安で塗装料を手に入れても30～50万円の費用が

かかる。予算の問題もあり、再発率の高さに困っている。活動を続けているにもかかわらず、落書きに関してまちにあまり変化は見られず、再発率をどう低下させるかが課題である。

また、広報活動に関して現在ではホームページのみだが、より広範囲に情報発信できるようにFacebookの立ち上げを予定している。

#### 4.調査のまとめ・分析

事前調査と現状調査によって得られた情報をもとに、つくば市における落書き問題について分析した。

まず、落書きは市内全域で一様に行なわれるものではなく、被害が特定の場所に集中していることがわかった。落書き被害を受けやすいのは、

- ・よく人目に着く場所
- ・すでに落書きやポイ捨てなどのある場所

であり、このような場所を重点的に対策していく必要がある。

次に、落書き対策にかかる費用の問題である。落書きの消去活動には多額の費用がかかり、予算も限られているため、現在の対策方法では全ての落書きに対応を行なうことは困難である。

また、つくば市の落書き問題で特に重要なのが、再発率100%という現状である。特に目立つ場所にある落書きは消去しても数日後には同じ場所に書かれているというケースが多く、予算上も消せる回数は限られており、いたちごっこの状態である。

さらに、市・活動者・市民との落書きに関する情報共有が不十分であることもわかった。住民は、市や活動者の行なっている活動に関してほとんど知る機会がなく、これが市民の落書きに対する関心の低さの起因であると考えられる。また市としても、落書きの現状を完全に把握することが困難であるため、きめ細かい落書き対策のためには住民による情報提供が必要不可欠である。これら三者が相互に情報を共有し合うシステムづくりも、落書きの現状把握と関心の向上に必要である。

以上の分析から、落書き問題は以下の4つの重

要なファクターによって構成されていると考えられる。

- 1) 落書きがされやすい環境の「場所」があること。
- 2) 落書きを消すことに「費用」がかかること。
- 3) 落書きを消しても「高い確率で再発」すること。
- 4) 落書きを消す活動や落書きの分布に関する「情報が不足」していること。

## 5.今後の展望

今後は、ここまでの調査で整理した現状をふまえて、つくば市の落書き問題に対し、

- I. 市・住民・活動者での落書き被害情報の共有
- II. 広報活動の強化
- III. 有効な落書き防止策の検証

という3つのアプローチで解決を目指していく予定。

I では、市が落書きの被害情報を把握しきれていない現状をふまえ、市・住民・活動者の三者が相互に情報を伝達し、落書きに関する情報を共有できるシステムを考えていく。

II では、落書き消去活動などの取り組みに対する認知度が非常に低い現状の克服を目指す。市やきれいなまちづくり実行委員会の活動をさらに広めることで、つくば市の学生や住民の落書きに対する関心を高め、活動者の幅を広げていくことが目的である。

III では、落書きに対する従来の防止策の弱点や課題を整理し、さらに有効な落書き防止策について考える。その上で、実際にその方策がつくば市において有効であるか、落書きの再発率が高い地点で実験を行い、検証する方針である。

以上の3つのアプローチから、最も有効と考えた手段を、つくば市役所や活動団体にて提案し、連携して実行する予定である。

## 6.謝辞

本調査の実施及び分析にあたり、多くの方に多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

- ・ つくば市役所 環境生活部環境保全課  
御田寺 義朗様  
柳田 奈苗様
- ・ 一般社団法人つくば青年会議所  
2014 年度  
理事長 對崎 寛様  
環境美化推進委員会委員長 五十嵐 徹様
- ・ 筑波大学  
体育系 助教 奈良 隆章様  
硬式野球部 飯田 雄太さん  
アンケート調査にご協力してくださった  
筑波大学 学生の皆様
- ・ 柴原不動産様

## 7.参考文献

- 1) つくば市役所ホームページ  
<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/15133/16203/016276.html>
- 2) 鎌倉市役所ホームページ  
<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/index.html>
- 3) 『つくば市環境白書』  
平成 25 年度 つくば市発行
- 4) 『つくば市きれいなまちづくり第3次行動計画案』平成 25 年度 つくば市発行
- 5) 『平成 25 年度つくば市意識調査報告書』  
平成 25 年 10 月 つくば市発行
- 6) 『割れ窓理論による犯罪防止・コミュニティの安全をどう確保するか』ジョージ・ケリング、C. M. コールズ著、小宮信夫監訳、文化書房博文社 2004
- 7) 『デザイン・アウト・クライム』イアン・カフーン著 小畑晴治訳 鹿島出版 2007